

デジタルトランスフォーメーションを 可能にするオープンAPIへの取り組み方

株式会社オージス総研

事業開発本部 クラウドインテグレーションサービス部 部長

大場 克哉 (Oba_Katsuya@ogis-ri.co.jp)

- ❑ 10年以上にわたり、システム連携にコミット
- ❑ 2012年からAPI案件に取り組み開始
- ❑ 多数のAPI開発・公開案件を実施（EC、インターネットサービス、金融、エネルギー、医療、製造、メディア等）

	取り組み
2001	SOA、連携基盤に関する技術開発を開始
2007	システム連携基盤構築サービス提供開始
2012	EC向けAPI連携プラットフォームサービス提供開始
2013	EC関連を中心にAPI取り組みを強化
2014	APIゲートウェイ技術開発開始
2015	データ簡単API化サービストライアル提供開始、IoT系API案件の増加
2016	社外向けAPI公開案件の増加
2017	FinTechを中心に、本格的なAPI公開・運用の案件増加



APIのトレンド

□ 進む環境整備

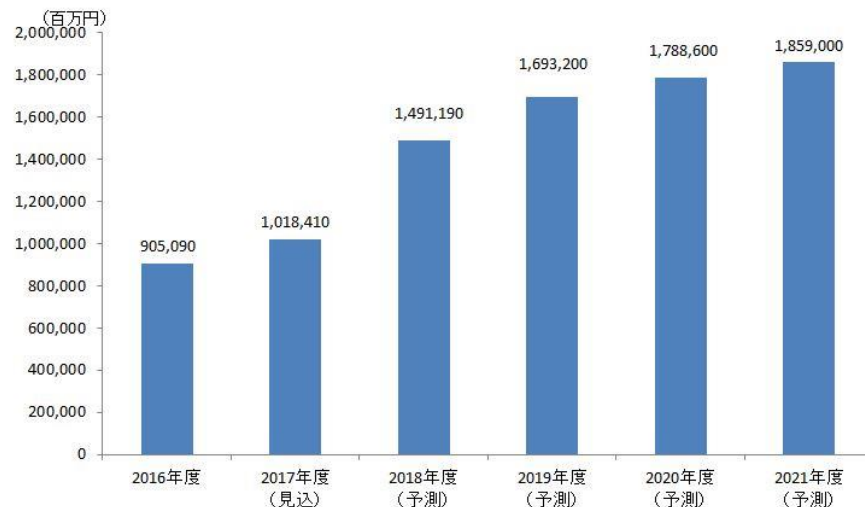
- 金融審議会金融制度ワーキング・グループの報告書公表 (2016.12.27)
→ 改正銀行法可決、成立 (2017.5.26) → 施行 (2018.6.1)
- 経済産業省 クレジットカードデータ利用に係るAPI連携に関する検討会の報告書公開, キャッシュレスビジョン (2018.4.11)
→ 経済産業省 産学官からなる「キャッシュレス推進協議会」を設立 (2018.7.3)

□ 金融機関の取り組み

- 三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行などメガバンクを含む各行がAPI提供の方針を表明 (～2018年3月)
→ 全邦銀 139行中130行がオープンAPIの導入表明 (2018年3月時点)
- 池田泉州銀行や群馬銀行など全国7つの地方銀行がフィンテックの新会社を設立すると発表 (2018.5.25)

- 2017年度の国内FinTech市場規模は前年度比12.5%増の1兆184億円、2021年度には1兆8,590億円まで拡大すると予測

- 株式会社矢野経済研究所
(2018年7月4日)

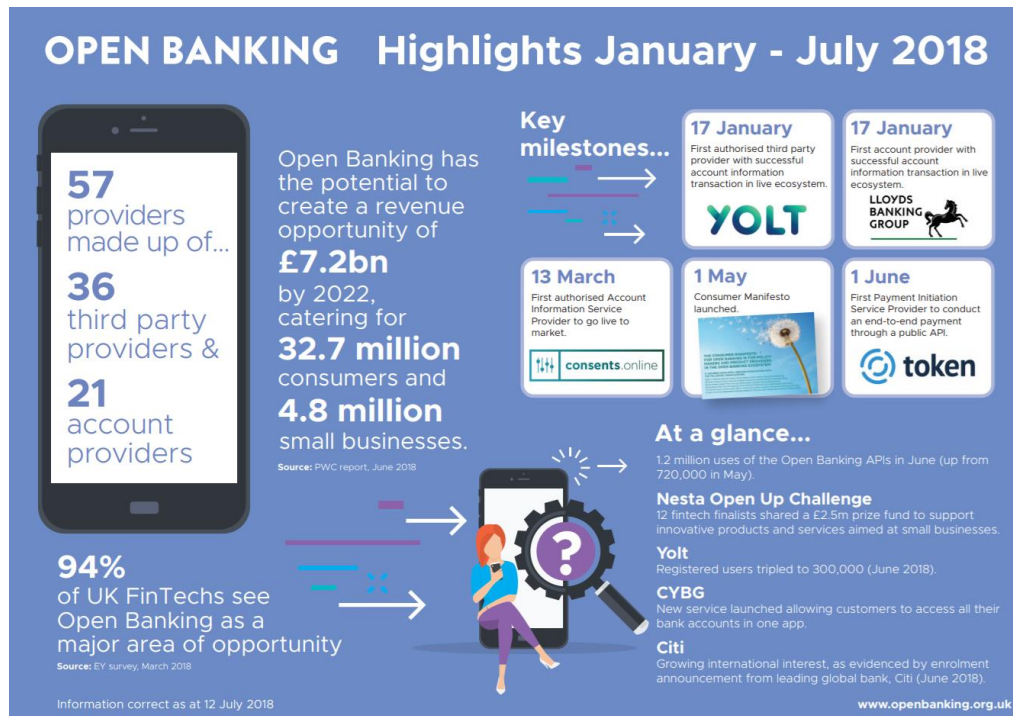


注1. FinTech系ベンチャー企業売上高ベース

矢野経済研究所調べ

注2. 2017年度は見込値、2018年度以降は予測値

https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/1922 より



- 2018年1月に開始
- 2018年7月時点
 - 36の第三者企業 (Fintech企業)
 - 21のアカウントプロバイダー (銀行、金融機関)
- Yolt: 登録者が3倍の30万ユーザー
- CYBG: 新しいサービスを開始

<https://www.openbanking.org.uk/wp-content/uploads/6-months-of-Open-Banking.pdf> より

- APIエコノミー形成に向けた「free オープンプラットフォーム」戦略を発表
- free株式会社（2018年5月15日）



The screenshot shows the announcement page for the 'free Open Platform' strategy. The header includes the 'free' logo and navigation links: 会社概要, ニュース, サービス, 採用情報, パートナー. The main headline reads: 'APIエコノミー形成に向けた「free オープンプラットフォーム」戦略を発表 開発者支援の強化や新規API連携パートナーなど'. Below the headline, a paragraph explains the strategy: 'free は、APIを活用した外部サービス連携を強化し、APIエコノミー形成を目指す新戦略「free オープンプラットフォーム」を発表しました。開発者向けサポートの強化や、連携サービスの領域を拡大し、「クラウド会計ソフト free」「人事労務 free」とともにサービスの提供価値向上を目指します。連携サービス拡充の第一歩として、販売連携領域における連携パートナー@社を発表。債権管理業務にかかる手間を削減します。' Below the text is a diagram illustrating the platform's architecture. It shows three main categories of services: '他クラウドサービス' (Other Cloud Services) including 販売管理, 経費精算, グループウェア, and コミュニケーション; 'アドオン' (Add-ons) including 業務特化, 外資対応, 外資対応, and PJT管理; and 'ユーザーの独自開発' (User Custom Development) including 業務システム, 本対応サービス, 業務システム, and etc... These services are connected to a central 'API' layer, which in turn connects to the 'free' ecosystem. The 'free' ecosystem includes 'free 会計フリー' (free Accounting Free) with icons for 請求書, ファイルボックス, 経費精算, レポート, 入退社, 勤怠, 給与計算, and 人事マスタ; and 'free 人事労務フリー' (free HR & Payroll Free) with icons for 請求書, ファイルボックス, 経費精算, レポート, 入退社, 勤怠, 給与計算, and 人事マスタ.

<https://corp.freee.co.jp/news/openplatform-0515-8320.html> より

APIマーケットプレイスが続々と国内展開

❑ 楽天、「RapidAPI」を提供する米国R Software社と独占的戦略パートナー契約を締結

- 世界最大規模のAPIマーケットプレイスをアジア地域で共同提供
- 楽天株式会社、楽天コミュニケーションズ株式会社（2018年7月11日）

❑ 日本初のAPI取引所「APIbank.jp」が本運用を開始

- 登録APIが1,000APIを突破
- AOSテクノロジーズ株式会社（2018年8月7日）



https://corp.rakuten.co.jp/news/press/2018/0711_01.html より

【NEWS RELEASE】日本初のAPI取引所「APIbank.jp」が本運用を開始 -登録APIが1,000APIを突破！-



https://blog.apibank.jp/whatsnew_20180807/ より

平成30年6月19日



首相官邸
メールマガジン



お知らせ

◇◇◇お知らせ1◇◇◇

～『未来投資戦略2018-「Society 5.0」「データ駆動型社会」
への変革-』を閣議決定しました～

未来投資戦略2018では、「Society 5.0」の実現によりもたらされる新たな国民生活や経済社会の姿を具体的に提示しています。そして、政府は、その実現のために自動運転、ヘルスケア、デジタルガバメントなどの重点分野において、変革の牽引力となるフラッグシップ・プロジェクトを推進します。

また、こうした社会変革を実現するための基盤となる、大胆な規制改革、AI時代に対応した人材の育成を始めとしたデータ駆動型社会の共通インフラの整備も進めます。
詳細は[こちら](#)をご覧ください。



https://www.kantei.go.jp/jp/mail/back_number/archive/2018/back_number20180619.html より

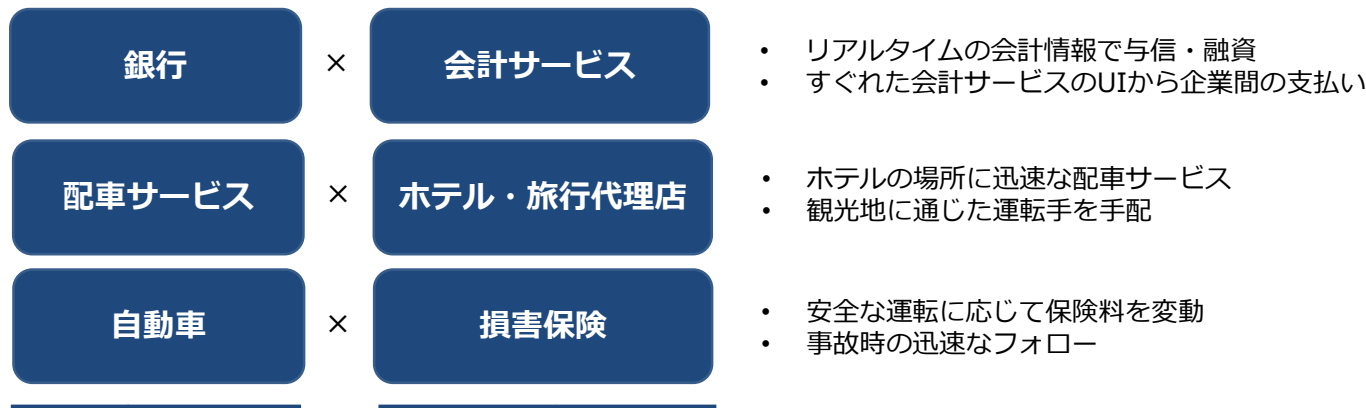
□ FinTech／キャッシュレス社会の実現

- 政府目標：2020年6月までにオープンAPI導入 80行
→ 2018年3月時点：全邦銀139行中130行がオープンAPIの導入表明

□ 金融以外の領域でのAPI活用

- まちづくりと公共交通：次世代モビリティ・システムの構築
- 個人に最適な健康・医療・介護サービス：PHR（Personal Health Record）の構築
- デジタル・ガバメントの実現（行政からの生産性革命）：デジタルファースト法の整備
- デジタル・ガバメントの実現（行政からの生産性革命）：建築関係手続のオンラインによる簡素化
- 大胆な規制・制度改革：プラットフォーム選択環境の整備

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/#senryaku2018> より



□ API公開側

- 収益、シェア拡大
- 他事業者に、必要な情報だけを安全に連携できるようになり、自社のデータやサービスの流通チャネルが増える

□ API利用側

- 顧客への迅速な価値提供
- 優れたAPIを利用することで、迅速に高度なサービス、アプリケーションをエンドユーザーに提供できるようになる

- オープンAPI
- 特定パートナー向けAPI
- マルチデバイス向けAPI

APIの公開パターン

無料	無償提供によるユーザー拡大	一部のデータや機能をAPIとして公開し、顧客ベースを拡大する
開発者が支払	有料API	提供するデータ、サービスそのものの価値に課金
開発者に支払	アフィリエイト	・ APIは新しい販売チャネル ・ APIを通じて得られた収益を開発者に一部還元する
間接収益 (売上増)	プレミアムサービスとしてAPI提供	上位サービスの差別化により、顧客単価増を狙う ・ 上位サービスのみに提供されるデータ、機能 ・ 上位サービスのみAPIでアクセス可能（顧客システムへ組み込み可能）
	パートナーとのビジネス拡大	・ チャネルとして活用（パートナー経由で自社データやサービスを販売） ・ 企業連携による新規サービス・ビジネスの展開
	APIによる開発期間短縮効果 (生産性向上、費用削減)	新規アプリケーション、新規サービス立ち上げ時の工数削減

- API公開の目的を明確にする
- APIの利用者および公開範囲を明確にする
- APIとして公開するデータ、サービスを明確にする

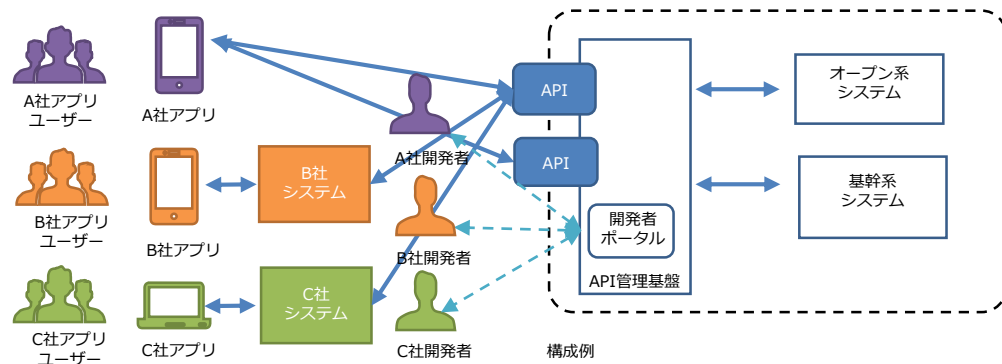


公開パターン	ビジネス効果
• 広く公開されるオープンAPI	• FinTechなどX-Tech (サードパーティによるイノベーション)
• 特定パートナー向けAPI	• 販売チャネルの拡大 (パートナーとの協業)
• 様々なデバイスに対応したサービスとAPI	• 顧客体験の向上 (顧客を取り巻くデジタル環境の変化への追従)

□ 他社（第三者）が開発するシステムやサービスを経由して、ユーザーへサービス提供

- 目的：オープンイノベーション、ビジネスのプラットフォーム化
- 利用者：他社（第三者）のサービスを通じてユーザーへ提供
- データ・サービス：自社サービス
- 例：銀行オープンAPI

（FinTech企業を通じて広く公開）

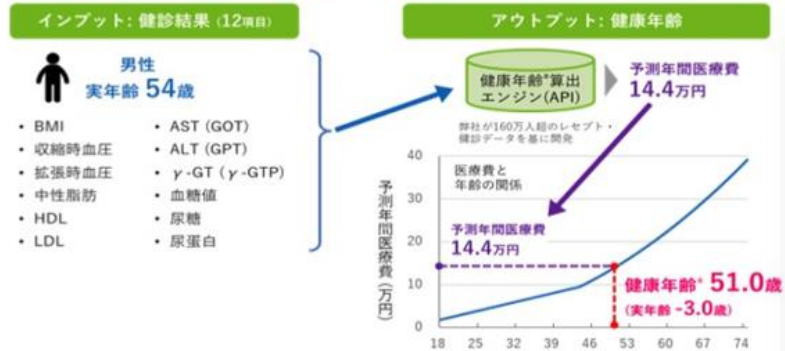


IBM様事例：日本医療データセンター様

- レセプト（診療報酬明細書）、健康診断などの医療ビッグデータを「健康年齢」APIとして生命保険会社等に提供
- IBM API ConnectおよびIBM DataPower Gatewayを採用してAPIの公開と運用を一元管理

健康年齢とは

健診結果から年間医療費を予測し、それが何歳相当のものであるかを表した指標



IBM Watson Summit 2017

健康増進サービスとの連携

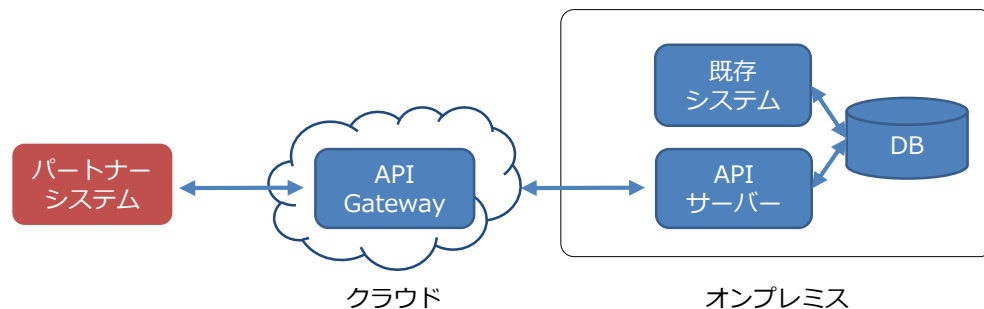
健康増進の実現のために様々なサービス提供事業者との連携が必要



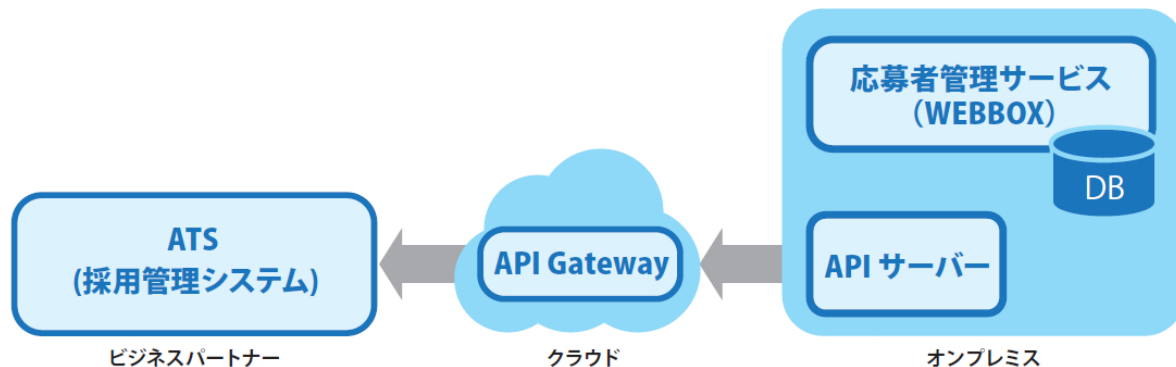
IBM Watson Summit 2017

(図表: <https://www-01.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?htmlfid=WUR12345JPJA> より)

- 特定のビジネスパートナーとのシステム連携の手段としてAPIを活用
- オープンAPIの前段階として進めるケースも
 - 目的：サプライチェーンのデジタル化、企業間のデータ連携
 - 利用者：特定のビジネスパートナー
 - データ・サービス：製品や受発注などの業務情報、自社のビジネス機能の切り出し

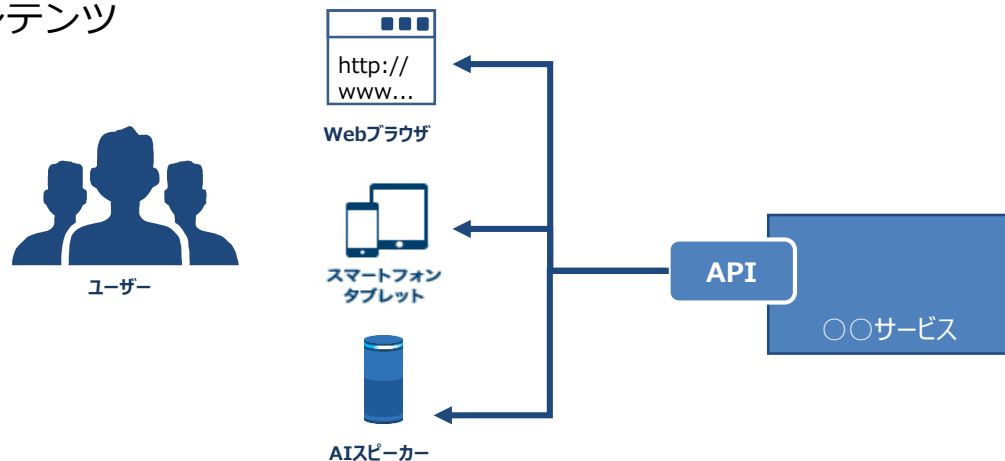


- パーソルキャリア株式会社（旧名:株式会社インテリジェンス）様
- アルバイト求人情報サービス「an」の応募情報へのアクセスをAPI化し、法人向けサービスの利便性を向上

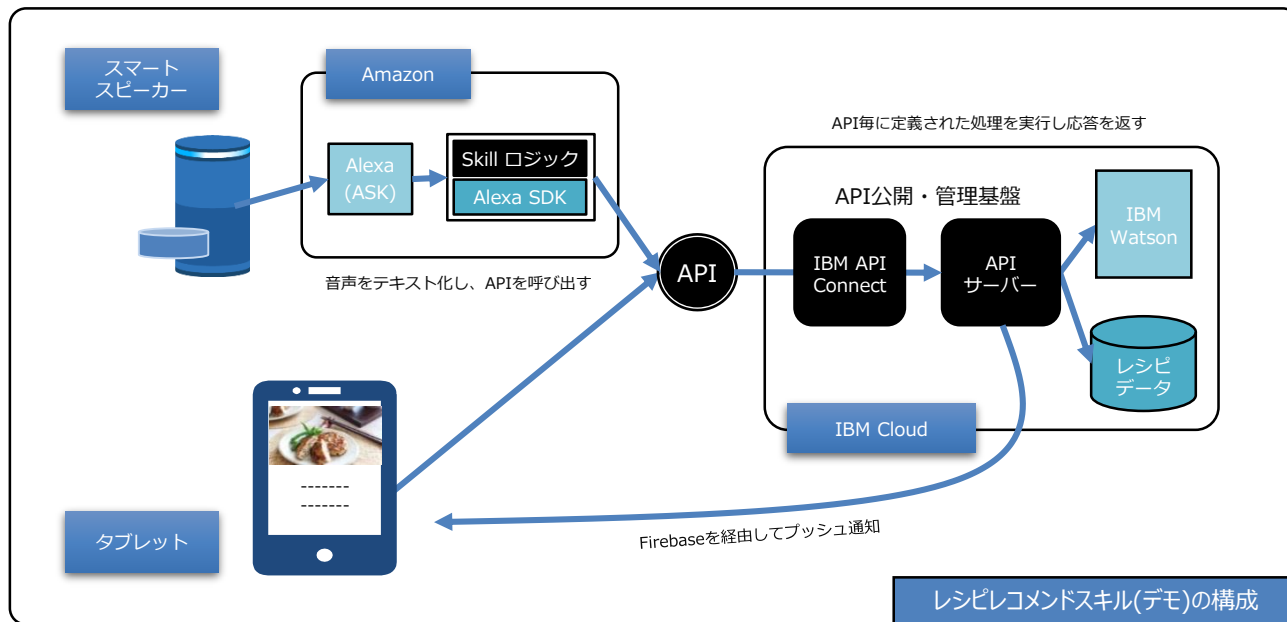


□ 顧客体験の向上のため「デジタル環境の変化」への対応

- 目的：新たなデバイスへの対応や一貫した顧客体験の提供
- 利用者：Web、モバイル、AIスピーカー（スマートスピーカー）などのデバイス向け
- データ・サービス：自社サービス、コンテンツ



- Webのみで提供していたサービスをモバイルアプリやスマートスピーカー向けにAPI化



- 自社の価値を他社サービスと組み合わせることで、新しい価値の提供や新しい顧客層へのアプローチが可能になる（オープンAPI、パートナー向けAPI）
- 顧客体験の向上のためには、顧客を取り巻くデジタル環境の変化に追従する必要がある
 - Webやモバイルだけでなく、新たなデバイスが次々登場することが予想される
 - 自社のサービスをAPI化することにより、新たなデバイスへの対応が可能に



ビジネスパートナー



センサー
ウェアラブル端末



AIスピーカー



スマートフォン
タブレット

API

- ライフサイクル
- API管理
- API認証認可

オープンAPIへの取り組み方

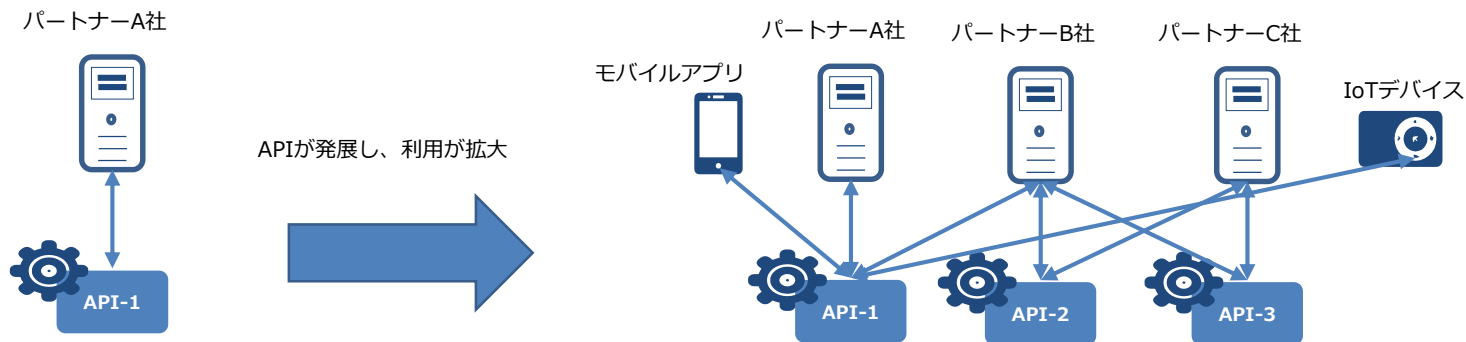
- API公開は、一度きりの取り組みではない
 - デジタルビジネスの成長、変化にあわせAPIを改修し、バージョンアップすることが必要
- ⇒ **ライフサイクルを素早く、しっかり回していくことが重要**



□ API数の増加や利用の増加にともない、環境変化への対応、改修の難易度が高まる

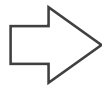
- API毎の実装方針の違いが足かせに

⇒ ビジネスの成長スピードを阻害しない、**頻繁なリリースを実現する仕組みの構築**が重要



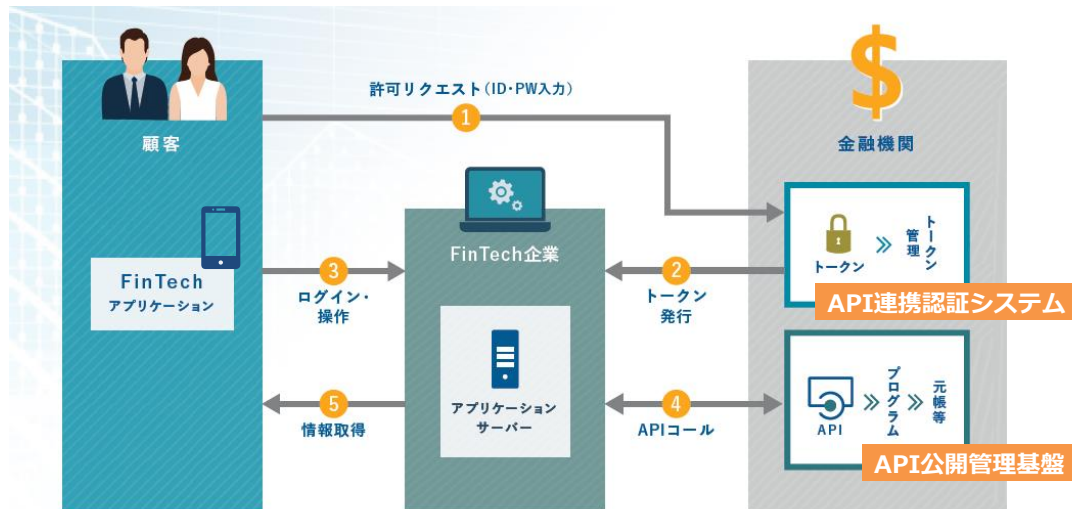
□ 特定パートナーとのAPI連携

- 組織内での Web API の利用
- 組織の境界内からのみアクセス可能



□ オープンAPIでは、

- 組織の境界の外側の第三者への Web API の公開
- Web API **利用者の認証**、機能やデータへの**アクセス権管理**が不可欠



□ APIのトレンド

- FinTechによる牽引、その他業界での広がり（APIマーケットプレイス、未来投資戦略）

□ APIの公開パターン

- APIによって「**企業間のパートナーシップ**」や「**顧客とのつながり強化**」を実現

オープンAPI、特定パートナー向けAPI、マルチデバイス向けAPI

□ オープンAPIへの取り組み方

- ユーザーが社外に存在し、変化が激しい環境でのAPI公開には「**公開・改善のサイクルを素早く回すしくみ**」が重要
- オープンAPI成功の鍵：

ライフサイクル、API管理、API認証認可